

1. はじめに：取り組みの背景

子ども達の背景
より複雑な環境を
長く経験

自分の
大切さを
知る必要

ホームでの取り組み

- ・誕生日外出
- ・ケーキを焼く
- ・プレゼントを買いに行く

こもれびからも何か
・2014年4月から
「お誕生日おやつ」

2. 本研究の目的

「お誕生日おやつ」の取り組みが子どもたちにとって自分の大切さを知る機会になっているかどうか、8年間を振り返り、今後の工夫を考える。

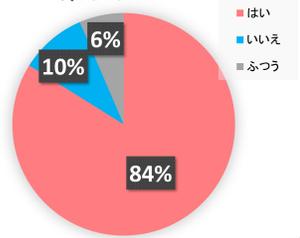
3. 方法

- ・方法:「お誕生日おやつ」についてのアンケート(子ども向け:選択肢+自由記述/職員向け:自由記述)
- ・対象:子ども 30人(小学生15人・中学生8人・高校生7人)、職員 30人

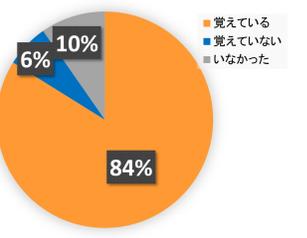
4. 結果と考察

子どものアンケートより

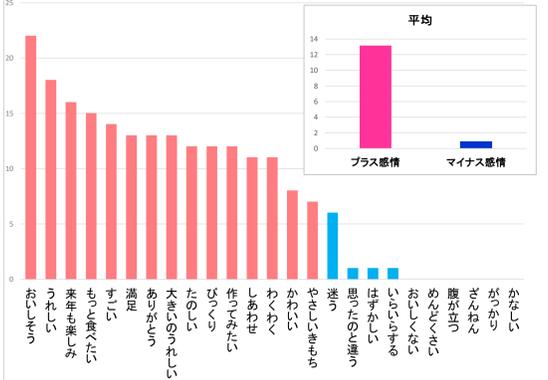
お誕生日おやつは
楽しみか



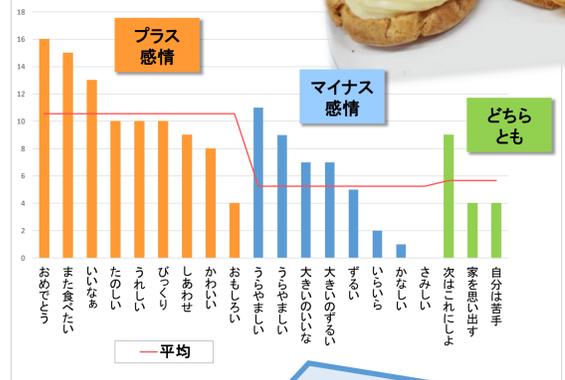
去年お誕生日おやつを
覚えているか



質問5 おやつときの気持ち



他の子の誕生日のときの気持ち



①1年前の「お誕生日おやつ」が良い思い出になっているので今年の「お誕生日おやつ」も楽しみに待っていてくれる。

②プラスの感情を思う機会になっている。

③未来に希望を持てるきっかけのひとつになっている。

①他の子の誕生日にも興味関心を持っていることが分かった。
②他の子の誕生日をおめでとと思える思いやりの気持ちがある。
③“次はこれにしよう！”という来年に期待している。

職員のアンケートより

⇒30人中17人の職員が「お誕生日おやつ」について相談されたことがあるという回答があった。

【誕生日より前の子どもの様子】

希望する「お誕生日おやつ」を選択するメニュー等があるわけではないので、今までの経験からあれもこれも取り入れたい様子。(大人と楽しく悩む。)

高学年以上の子の方が真剣に悩んでいる。

ずっと前から考えていた様子が多い。月間のおやつ表を見て「これは自分の誕生日やで」「この日は〇〇の誕生日やで」など自分も、他の子のおやつにも興味関心を持っている。

①自分の誕生日を特別だと思っているからこそ、後悔しないメニューにしたいためたくさん悩む。

②他の子の誕生日に関して祝う気持ちになっている。

③自由に考えることで大人と一緒に悩める機会になっている。

④入所児童全員に「お誕生日おやつ」をしているが自分の時は“特別感”“来年もある”という気持ちが芽生えている。



【誕生日当日、以降の子どもの様子】

出来上がった「お誕生日おやつ」を見て、雄叫びをあげたり、何度も見たり、全身から喜びが出る。

同じメニューでも他の子よりも大きい、旗が立っているなど誕生日の子は特別にすることで特別だと感じ、周りでもその子をお祝いする気持ちを持っている。

「今日俺の誕生日やで」と言いながら食べている。(自分の誕生日のおかげでほかの子もおやつを食べられることに優越感。)

5. まとめと今後の課題

「次はどうぞ」
来年に希望持たせる
ことができている

8年間続けてきた成果

・継続することが大切
・続けるための工夫が必要
(作り手と食べる人両方の思いを大切にしてい)

子どももホーム職員も
こもれびも
愛染寮全員が

「幸せ」な気持ちになる食を提供していく。

